

学生支援の現場から

◆東京女子大学

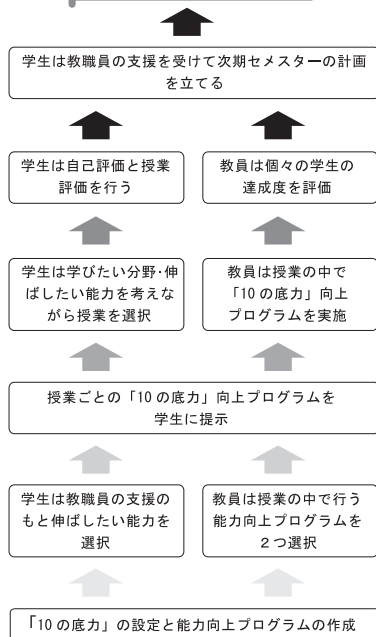
授業を使ったキャリア支援
「10の底力」プログラム

加藤 千恵
（GP推進室長 教授）

社会で必要とされる基礎力をどのように伸ばしていくか、どの大学もキャリア支援体制の構築に知恵を絞っている昨今ですが、本学では、学生であればだれもが参加する「授業」のなかで基礎力を高める取組みを行っています。

学生の基礎力を高めるためのワークショップやセミナーを数多く開いても、すべての学生に参加してもらうことは不可能です。積極的に参加する学生は能力が向上し、参加しない学生との差は開いていきます。在学生全体の基礎力を向上させるのに良い方法はないだろうか、学生全員が出席している授業を活用すれば高い効果があげられるのではないか、そんな発想から生まれたのが「10の底力」プログラムです。

「卒業成長値」の高い大学



プログラムの流れ

教員は自分が担当する授業において、専門的な知識を教えることに加え、社会人として求められる「10の底力」を学生が伸ばせるように授業の運営方法を工夫します。開講されているすべての授業科目で行うことに意義がありますので、専任教員だけでなく非常勤講師の先生がたにも協力をお願いしています。

「10の底力」とは、①コミュニケーション能力、②プレゼンテーション能力、③ディスカッション能力、④国際感覚・多文化理解能力、⑤外国語運用能力、⑥IT能力、⑦調査能力、⑧クリティカル思考、⑨コンセンサススキル（問

題発見・提案・実行力)、⑩自己理解能力です。授業担当者は自分の授業で伸ばせる「底力」をあらかじめ二つ選び、学生に提示します。教員はその分野の専門知識を教えると同時に、自分が選んだ二つの「底力」が伸びるように学生を指導します。

授業がすべて終了すると、学生は自分の「底力」がどのくらい伸びたか、また授業担当教員も学生一人一人について「底力」の伸び具合を、二点(非常に身についた)、一点(やや身についた)、〇点(とくに変化なし)で授業ごとに評価します。獲得した点数はリーダーチャートとなって学生に手渡され、次のセメスターの履修計画に生かされます。

入学から卒業までの四年間の成長の記録「卒業成長値」こそ、学力偏差値とは異なる、学生時代に伸ばすことができる基礎力です。このプログラムは、少人数授業という教育環境を生かしたキャリア教育として、平成二〇年度「学生支援GP」に選定されました(「卒業成長値を高める『10の底力』」)。



国際感覚・多文化理解能力と調査能力を伸ばす授業「国際協力」

プログラムを進めるにあたっては、キャリアアカウンセラーによる学生への授業選択アドバイスや教員との連携が不可欠です。この仕組みを作っているのがGP推進室(GPルーム)。開室して半年経ち、学生の利用率も少しずつ上がっていますが、まだ十分とはいえません。学生たちが「10の底力」を指標に、授業の相談や将来の進路との関連についてキャリアアカウンセラーと気軽に話せる空間を作っていきたくと考えています。



GPルーム